

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由時館		
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由時館は各入居者様の介護度に応じ援助方法を家族様に、理解してもらい、満足を与えるように努力しています。スタッフ間の介護方法を統一し入所者様の不安、混乱を排除し平穏な日々を送れるよう心掛けています。一泊泊まりの旅行、地域行事、散歩、買い物、中学生の福祉体験などにも協力していますが、現在コロナの為ほとんどの事が出来ない状態です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体 利楽心(株)は池田市を中心にデイサービス、グループホーム、小規模多機能居宅介護、住宅型有料老人ホーム、保育園等を運営している。当事業所は2004年に木造2階建ての2階部分に開設された。1階には障がい者対応のグループホームが併設され、5名の男性職員がおり心強い。現在7名の利用者は要介護4と5で介護度は重いが、毎月の職員会議では利用者一人ひとりのケアについて話し合い、職員によって支援の仕方が変わることのない様にしている。長引くコロナ禍の中、一番の楽しみ事である食事は調理専門職員が行い、旬の食材を利用者に合わせて作り、美味しい匂いがリビングに溢れている。利用者は柿をむき、みそ汁の具を切るなど楽しみながら職員と一緒に準備している。職員間のコミュニケーションも良く、家庭的で温かい大きな家族を目指し奮闘している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の話し合いにより「みんなのためにあなたがいる。あなたのためにみんながいる。」というホーム独自の理念を共有している。	左記の事業所理念を笑顔の円陣イラストを囲むように書き、リビングに掲示している。利用者・家族、新人職員には入居時に説明している。毎月の職員会議で日常ケアを振り返りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し月一度のふれあいサロン、町内会の季節のイベントに参加しているが新型コロナウイルスのため今は開催していない。	地域活動の情報は自治会の回覧版により得ている。コロナ禍によりイベントは殆ど中止になっているが、6月には近隣の公園で菖蒲まつりが開催され、飲み物チケットを頂き、楽しいひと時を過ごした。グループの保育園児からは敬老の日に手作りのプレゼントが届けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成講座受講済みの職員がおり、地域に向けての勉強会も行っている。地域中学生の福祉体験を受け入れているが今は新型コロナウイルスの為に中止中	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い、当ホームの状況、意見を交換している。	会議は年6回、利用者家族、自治会長、老人会代表、民生委員、地域包括支援センター職員、職員で開催している。コロナ禍により書面会議となっているが、運営状況、行事報告等を記載し、メンバーと家族全員に送付している。	議事録は事業所の報告事項にとどまり、双方の意見交換がなされていない。意見収集方法を工夫し(電話による聞き取り、返信用封筒の同封など)、地域とつながりながらサービス向上に活かす会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行い、当ホームの状況を毎回報告している。アドバイスをいただいたり相談等も行い質の向上に取り組んでいる。	介護保険課には書類の申請や運営推進会議の議事録を管理者が持参している。郵送でいいよと言われるが、顔を出すことが重要と考え、その際、担当者には権利擁護などの必要資料をもらったり、わからないことを相談している。地域支援課には研修等で連絡を取り合い、協力関係は良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間4点柵を2名、ミトン1名の方に対しおこなっている。いずれも多体動、身体を傷つける、危険察知能力の低下のため転倒、転落のリスクが高いという理由である。定期的にカンファレンスを行い必要があるか検討している。	身体拘束適正化の指針を作成し、法人全体で委員会を3カ月ごとに開催し、研修も定期的に行い、チェックシートで確認し、理解を深めている。現在、利用者家族同意のもとに夜間に4点柵使用の利用者とミトン使用の利用者がおり、2週間ごとに経過観察を行っている。2階段降り口は安全のため扉を付け施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修をおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間を取っていただき、契約を行っている。不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族とコミュニケーションを図り、意見や不満を言っていただく。発言がしにくい場合もあるため意見箱を設置している。月に一度の派遣相談員の訪問もあるが、今は中止している。	1階玄関に意見箱を設置しているが、利用者の意見は日常ケア時、家族からは電話での報告時や居室担当からの毎月の手紙に管理者からのメッセージを添えて要望を聞くようにしている。調査機関が今回実施した家族アンケートでは「介護状態等詳しく手紙で報告してくれる、接し方が優しい、体調に合わせ食事を考えてくれる」など、感謝の声が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を業務に反映している。	職員は毎月の職員会議で、率直に意見を述べ、会議録は全員が回覧している。食事形態や立位の不安定な利用者の排泄など、利用者にとっての最善の方法を話し合っている。申し送りノートには、ちょっとした気づきも記入し、情報を共有している。個人的な問題は管理者が個別に聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激しあい、向上心を持って働けるような環境を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけではなく色々な職員に研修を受付ける機会を作りたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月ごとに池田市のグループホームの管理者、ケアマネージャー、リーダーが集まり意見交換や困難事例の検討会をおこなっているが今は新型コロナウイルスの為開催していない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間を作り、本人が安心出来るような信頼関係が築けるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に沿えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族、職員が話し合いながら、御本人にとって何が一番必要なのかを話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人、御家族、職員という関係ではあるが、家族同様お互いが支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族のようにご本人を支え、御家族が気軽に訪問していただける環境作りを心がけ、ご家族様にも協力していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加する事や、入所前からのお付き合いをできる限り支援している。	コロナ禍前は毎日のように馴染みの人の来訪があったが、今は面会制限もあり家族の来訪もままならない。面会緩和時には管理者が家族に知らせ、来訪を勧めている。妻の誕生日プレゼントを持参するご主人もいる。家族からの電話はスピーカーにしたり、聞き取りにくい場合は職員がサポートしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションの橋渡しを行っている。又、一緒に外出をし楽しみの共有を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と連携を取り、御本人に面会に行く関係が続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いや暮らし方の希望を聞き取りご意向に添うよに努力している。	利用者の意向・希望は、こまめな声掛けとその時の表情で探る様にしている。家族からも聞くようにしているが、レクリエーション時の一生懸命な様子や甘いものを食べた時の喜びの表情など逃さない様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、御本人とご家族様から情報収集を行い、入所後も話しやすい状況を作り時間をかけて情報を把握出来るように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を記録して心身状態、出来る事をアセスメントし把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成はご本人、ご家族、主治医、居室担当、管理者が話し合い介護計画を作成している。ご本人とご家族の意向を良くお聞きしモニタリングをするように努めている。	利用者・家族の要望を基に、医師・看護師の意見を参考に、申し送りノートを確認し、職員会議で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、日々の記録に短期目標、援助内容を記載した介護記録により職員全員が介護計画を把握し、サービス担当者会議で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に作成した介護記録で体調やケアの実践の状況の情報を共有し、状況に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院が必要な方の送迎、付き添いなども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館の催事、地域の行事への参加を積極的に行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	在宅医療の訪問診療を利用している。ご家族様の信頼を得る為、必要に応じご家族と主治医との面談も行っている。	入居時に事業所から説明を行い、利用者の納得と同意を得て、かかりつけ医を決めている。現在は、全員が事業所の協力医の訪問診療を、神経内科は月2回、歯科は月1回受診している。皮膚科についても1名が従来のかかりつけ医の往診を受けている。看護師はグループの訪問看護ステーションから週1回来館し、利用者の健康管理に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問診療の医師や看護師と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医師、看護師、相談員との連携をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの場を持っている。状態の変化にあったケアを行う為に必要に応じ医師も交えてご家族と話し合い、方針を共有している。	入居時に利用者・家族等と重度化や終末期の説明を行い、終末期には医師、看護師、家族等と事業所関係者が一堂に会し、医師が利用者の現状を説明し、家族等の同意が得られれば看取りケアに入る。管理者は、これまで医師から看取りケアの知識を学び、管理者は職員に心構えやケアを伝えている。現在、利用者4名の看取りケア中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や定例会議において緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	池田市の消防署の協力のもと火災訓練を行ったり、ホーム独自で総合訓練と部分訓練を各一回行っている。	最大の関心は夜間火災で、地震・水災は4年前の大地震経験や立地上から特段の心配はない。避難訓練は、毎年2回夜間想定を含め実施している。木造2階に車いす生活者が多いことから、管理者は全員が無事避難できることが関心事である。備蓄は飲料水・食品等を保管中だが、現在本部でグループ事業所の効率的な備蓄方法を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを意識している。	プライバシー保護マニュアルを整備し、利用者の尊厳と人生の先輩としての敬意を払いながらケアに当たっている。特に排泄時や入浴時の同性介護と日常の言葉かけに注意を払っている。呼びかけは基本「～さん」だが、1人だけ「～ちゃん」と呼ぶ利用者があるが、そう呼ばれることで利用者が落ち着きを取り戻すことができ、家族の了解も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択出来るように声掛けには工夫をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにあわせているが、職員の人数の問題もあり、入浴時間等は限られた時間になる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望で毛染めやメイク、ネイルなど出来るように支援したり、服装も相談に応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、片付けをその人の能力に合わせて一緒に行っている。	食事は専門の調理員が献立作り、食材買付けから調理に至るまで行う。食事時には利用者の食欲をそそる匂いが食堂に漂っている。誕生日やイベント時には特別食が用意される。お好み焼き、カレー、ピザや手作りケーキが利用者に好評である。一緒に調理に参加する利用者もいる一方、注射器に似たシリンジを使い食事をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コーヒータイムやおやつの時間を設けることにより、栄養バランス、水分摂取を確保している。又水分量、食事量が分かるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせてマウススポンジ、マウスウオッシュ、歯磨きティッシュ等を使用し口腔ケアを行っている。ご自分で出来ないかたは、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で個々のパターンを把握しトイレ誘導の時間を工夫してオムツの使用を減らすようにしている。	利用者の1人が排泄の自立が可能で、職員が見守りでトイレ支援している。大半の車いす利用者は、日中・夜間を問わず、おむつの生活である。職員は、パッドを併用したり、排泄の時間を工夫したりすることで利用者の経済的負担にも配慮している。夜間は、3時間ごとの巡回で安眠を最重視している。ポータブルトイレの利用者も1人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の都合である程度の時間制限はあるが利用者様の様子に合わせて時間をずらす等の工夫はしている。好みの入浴剤などで楽しんでいただいている。	入浴は週2回が基本で、毎日午前中に2～3人が入浴している。浴室は、一般家庭浴槽で利用者1人が介助により浴槽に浸かることが可能である。ほかの利用者はシャワーチェア一等を使い、温かいお湯を背中にかけてもらったり、足湯を行ったり、清拭をしたりしている。入浴剤を使い、利用者は入浴後ほのかな良い香りに包まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせてお昼寝などして過ごして頂く。居室の温湿度を調整し安眠につながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルがありいつでも確認が出来るようにしている。変更や追加時は申し送り徹底をしている。又薬局と連携して薬のセットや在庫管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった趣味や好みを理解し生活の中に取り入れる事により楽しみながら生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望時、買い物や外出の支援に努めている。	コロナ禍にあっても、月2回程度近隣の散歩やコンビニでの買物に出かけている。また、2ヶ月に1回程度梅や桜、水と緑で有名な近隣の公園にも出かけている。近隣住民は、利用者の散歩等を奇異の目で見て非難することもあるが、事業所では利用者第一に考え、近隣の理解も得たいとしている。車を利用し花見や紅葉狩りにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からのお小遣いをご自分で管理され、買い物時ご自分でお支払いされる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時には電話をかけたり手紙を出したりすることの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を避ける為大幅な配置変更はしない。温度管理にも配慮する。	階段に昇降機が設置され利用者に優しい造りになっている。壁には手作りの季節感あるタペストリーや利用者・職員協働のサンタやクリスマスの飾り等が貼られ、季節感を醸し出している。リビングのテレビではYou Tubeも楽しめ、利用者には昔懐かしい有名歌手の演歌等が好評である。室温や加湿器による湿度調整がされ快適さを保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり居室以外では一人になれる場所はないが、ソファの座る位置などお気に入りの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や好みのものを居室に置いて生活してもらえるように配慮している。	居室は、ベッド・エアコン・クローゼット・傘型照明や防災カーテンが予め備え付けられている。利用者は、使い慣れた衣装ケースや日用品、思い出の写真やぬいぐるみなどを持込み、保育園児の贈り物の首かけや米寿祝いの職員作成の壁掛けなどを飾り、利用者自身好みの空間を創り出している。CDの音楽を楽しむ利用者も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いすぎないように職員同士が声を掛け合いながら、本人の力を引き出すようにしている。		